

会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号) 1-42	令和7年度「第1回墨田区がん対策推進会議」		
開催日時	令和7年8月20日(水) 午後1時半から午後3時まで			
開催場所	すみだ保健子育て総合センター3階 301会議室			
出席者数 (19人)	<p>【外部委員】渡邊清高、福井一人、熊谷京子、武井和彦、白石弘子、桜井なおみ、轟千代佳、駒場誠弥、椎名美恵子、石井智子、伊藤夏香 (敬称略)(計11人)</p> <p>【部内関係者】保健衛生部次長、保健予防課長、保健計画課長(計3人)</p> <p>【事務局】健康推進課長、健康推進課地域保健担当主査2人 健康推進課地域保健担当主事2人(計5人)</p>			
	<input checked="" type="checkbox"/> 公開(傍聴できる) <input type="checkbox"/> 非公開(傍聴できない)	<input type="checkbox"/> 部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	0人
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 区長挨拶 3 委員及び関係課長の紹介 4 墨田区がん対策推進会議及び専門部会の概要について 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 墨田区のがんを取り巻く現状について (2) 令和7年度がん対策事業の実施予定について (3) その他 6 閉会 			
配布資料	<p>【机上配布資料】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「墨田区がん対策推進会議」委員名簿 2 令和7年度「墨田区がん対策推進会議」の概要 3 令和7年度 墨田区がん対策推進会議「がん検診精度管理部会」の概要 4 がんの現況について 5 墨田区のがんを取り巻く現状(最新データ) 6 令和7年度がん対策事業の実施予定について 7 令和7年度「第1回墨田区がん対策推進会議」ご意見・ご質問シート <p>【参考資料】</p> <p>墨田区若年がん患者在宅療養支援事業リーフレット</p> <p>ピンクリボンイベントチラシ</p>			

<p>会 議 概 要</p>	<p>1 開会</p> <p>2 区長挨拶（省略）</p> <p>委員及び関係課長の紹介（省略）</p> <p>3 墨田区がん対策推進会議及び専門部会の概要について 資料2～3に基づき、事務局より説明</p> <p>4 がんの現状について 資料4に基づき、渡邊会長より説明</p> <p>5 議事 (1) 墨田区のがんを取り巻く現状と各がん検診の実績について 資料5に基づき、事務局より説明。</p> <p>【意見・質問等】</p> <p>渡邊会長：資料5の説明の中でがん検診受診率やプロセス指標の推移について説明があったが、ご意見やコメント等があれば福井委員に伺いたい。</p> <p>福井委員：検診の受診率に関し、今まで受診勧奨を繰り返し良くなっているものもあるが、頭打ちになっているように感じる。令和6年度から胃内視鏡検査では受診票を直接送付しているため、増加すると予測している。また令和9年度に行政のシステムが変わるタイミングで、直接送付といった形で受診勧奨ができ、より一段と受診率が上がるはずである。実施医療機関のキャパシティや検診の質を保つための指導について医療機関側、医師会側で行う必要がある。ぜひ皆様のご協力をお願いしたい。</p> <p>渡邊会長：検診については個別勧奨が重要であるので、きめ細かく行っていただきたい。墨田区民の75歳未満年齢調整死亡率は年々減少していることについての報告があったが、日ごろの民生委員の活動の中で、がん検診に対する意識などで何か感じられていることや、区のがんの現状を聞いたご意見、ご感想があれば伺いたい。</p> <p>石井委員：がんは2人に1人がり患され、生存率が上がっている現状に伴い、活動の中で経験談を聞くことが多い。がん検診のお知らせは区から案内が多く届くため、皆さん受診されていると思う。資料の中で大腸がんの検診率、受診率が下がったのは何か原因があるのか？</p> <p>渡邊会長：東京都の集計方法が変わったためだと考える。</p> <p>桜井委員：かかりつけ医の仕組みはどのように機能しているのか？海外ではかかりつけ医からがん検診の直接的な勧奨がある。</p> <p>福井委員：実際は健康診査に紐づいていれば受診を勧めやすい。また大腸がんや肺がんなどは健康診査と同時に行っている医療機関であれば良いが、胃がん検診や女性特有のがん検診に関しては自医療機関で行っていないければ、積極的には勧奨できていない。</p> <p>桜井委員：ホームドクター制度が日本でも広がることを期待している。墨田区から</p>
----------------	---

先例事例を作っただけだとよい。

(2) 令和7年度がん対策事業の実施予定について

資料6の基本方針別施策 に基づき、事務局より説明。

【意見・質問等】

渡邊会長：向島歯科医師会の熊谷委員にお伺いしたい。歯科診療所において、口腔に関するたばこの害等を伝えるリーフレットを配布いただいているが、効果やお気づきのこと、またその他説明にご意見等があるか。

熊谷委員：当クリニックでもリーフレットを配布している。禁煙をされている方の割合が多いが、まだ禁煙できていない方に配りたい。また口頭でがんやたばこの害について説明し続けたい。

渡邊会長：本所歯科医師会の武井委員に同じ質問をお伺いしたい。

武井委員：女性のがんの死亡率の1位が肺がんになったのは、長年携わってきただけに残念である。東京都の受動喫煙防止条例もでき、たばこ対策が確立化され良い結果を期待していた。成人歯科健診等いろいろな健診の場においてがん検診受診を勧奨しているが、区民の方々に検診のシステムが浸透してきているのを実感している。熊谷先生がおっしゃっていたが、たばこの害について、治癒機転での喫煙者と非喫煙者の回復力の違いが大きくパンフレットを元に説明している。

渡邊会長：薬剤師会の白石委員にお尋ねする。禁煙補助薬が供給停止になっている中でも禁煙医療費補助事業は一定の利用があり今年度も実施していくとのことだが、現状、禁煙サポート薬局で支援していただいている内容やその中でのご意見があればコメントいただきたい。

白石委員：禁煙治療薬の流通がないため、サポート薬局登録が減っている。薬剤師会での啓発も必要だと感じている。禁煙サポート薬局の研修会を毎年行っており、啓発を進めていきたい。

(3) 令和7年度がん対策事業の実施予定について

資料6の基本方針 に基づき、事務局より説明。

【意見・質問等】

渡邊会長：がんとの共生についての説明について、何かご意見はあるか。

桜井委員：2点ある。1点目、AYA世代の在宅療養の助成ができ喜ばしい。件数は少ないが、案内が行き届かない現状もあるため、墨東病院やがん研究所有明、国立がん研究センター等、相談支援センターに情報提供いただきたい。2点目、アピアランスケアについて他の自治体でも申請が多いと聞き及んでいる。墨田区はがん患者だけに対象を留めているが、脱毛症や事故で毛が生えない方などウィッグを必要としている方たちもサポートしていただければと思う。

渡邊会長：アピアランスケアの拡充について、私も課題と考える。検討を要する。区民に寄り添う形で支援できるとよい。

桜井委員：爪の障害、リンパ節、様々な課題がある。ニーズに沿った形に整えていけるよい。お尋ねするが、アピアランスケアの申請時にがん相談支援セ

ンターに繋がる案内はあるか？

事務局：申請にはがん相談センターと直接つながってはいない。

桜井委員：がん患者はがん相談センターを経由して手続きすることが多い。アピアランスをきっかけに、働くことへの課題とか、いろいろな相談ができるようなシステム作りもできるかもしれない。

渡邊会長：椎名委員にお伺いしたい。若年がん患者在宅療養支援事業では、訪問看護ステーションとして関わりが大きいと思うが、今後にむけてご意見などあれば聞きたい。

椎名委員：昨年からがん患者さんへの支援は、訪問看護ステーション協会墨田支部で委託を受けているので、協力体制はある。ステーションに案件が来ないと支援につながらないので、退院する際、病院からご紹介をいただければ、私たちの支援に早くつながると思う。先生方にもご協力をいただければありがたい。

渡邊会長：駒場委員にお伺いする。在宅緩和ケア事業の中で、専門職向けに研修を行っているということだが、地域の中での緩和ケアに関する専門職への普及などについて、何かコメントをいただきたい。

駒場委員：賛育会病院緩和ケア病棟として、いろいろな講演や勉強会に要請があって話したりはするが、立場上、緩和ケアの話と受け止められてしまう。医療看護があれば、入院せずに在宅で過ごせることを、クリニックの先生や訪問看護師さんからお話しを伺う機会を増やしたいと考えている。

渡邊会長：在宅看護のイメージを関連の職種の皆で共有することは必要である。

(4) 令和7年度がん対策事業の実施予定について

資料6の基本方針 に基づき、事務局より説明。

【意見・質問等】

渡邊会長：がん患者代表として轟委員にお尋ねしたい。全体を通して、もしくは背景について何かご意見コメントはあるか。

轟委員：がん教育について、子供から保護者に伝えるために、お家の方にサインをもらったりしていたが、ここ数年ないので一度説明する機会を作り、家庭との連携を深め、がん検診受診勧奨に繋げたい。

桜井委員：女性の肺がん患者について、喫煙率も非常に高いため、統計などでターゲットを絞れるか？

渡邊会長：東京東部地域では女性の喫煙率が高く、課題である。

桜井委員：少しずつ増えてきている感がある。

武井委員：若年層が多いのか？健診時には喫煙の問診項目があり、学生には学校教育の機会がある。中・高校生～妊産婦までは喫煙者は少ない。

事務局：特定健診の問診項目によると40代から70代まで都・国より割合は多い。50代が一番多い。アンケート調査では、30代は比較的少ないが、20代の吸っていると答えた方は比較的多い。

桜井委員：最近電子たばこがコンビニエンスストアのレジ回りで目立っている。購入のノベルティがあるため、購買意欲が上がるのでは？都や国全体で考える問題かもしれない。飲食店に対する啓発では、電子たばこはどう扱

	<p>われているのか？</p> <p>事務局：電子タバコも東京都の条例とか国の法律上、普通のタバコと同じような扱いになっている。原則的には飲食店では吸えない。</p> <p>桜井委員：苦情は少ないか？</p> <p>事務局：紙たばこの方が多いが、電子たばこの通報もある。</p> <p>渡邊会長：今後の動向に注視が必要である。たくさんの意見に感謝する。各専門部会において皆様のご意見を踏まえてさらに議論を深め、可能であれば反映していただきたい。次回会議では政策に合わせアウトカム指標も併せて示されているので、皆様のご意見を伺いたい。以上をもって、本日の議事はすべて終了となる。</p> <p>5 閉会</p> <hr/> <p>会議の概要は以上である。</p>
所 管 課	保健衛生部 健康推進課 地域保健担当 (電話 5608-8514)